

「第2次宇都宮市食育推進計画」素案に対するパブリックコメントの結果について

1 実施状況

(1) 募集期間

平成24年2月15日（水）～平成24年3月7日（水）

(2) 応募者数

5名（意見：11件）

※ 内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性				1		1	1	3
女性				2				2
計				3		1	1	5

(3) 提出方法の内訳

郵送	ファックス	Eメール	持参	電話	計
1	2	0	2	0	5

(4) 内容別の内訳

No.	区分	件数
(1)	食文化への理解を通じた食育の推進について	2 件
(2)	食の安全・安心への理解を通じた食育の推進について	2 件
(3)	ライフステージに応じた食育の実践のための行動指針について	4 件
(4)	事業内容について	3 件
	計	11 件

2 意見の概要と意見に対する考え方

(1) 食文化への理解を通じた食育の推進について

No.	意見の概要	意見に対する考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> 「郷土料理」の表現が何度か出てくるが、地域色を出すため、「しもつかれ」や「柚子味噌」など、具体的な表現にするのがよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な料理名「しもつかれ」「ゆずを使った料理」などの例示をした方がイメージしやすく、地域の特性も踏まえることができることから、いただきました御意見を参考にさせていただき、記載に反映いたします。
2	<ul style="list-style-type: none"> 自分が住む地域では、地域コミュニティセンターと単位子ども会が連携し、毎年「餅つき大会」を実施している。古来の日本食の伝承についても食育の観点から取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 御意見いただきました古来の日本食の伝承や食文化の伝承は、食育の主要なテーマであり、本計画では、基本施策に（P51）「食文化への理解を通じた食育の推進」として位置付けており、この施策に基づき、各種広報媒体やイベント等を活用した郷土料理や伝統料理に関する情報提供を実施するとともに、地域コミュニティセンター等と連携しながら、郷土料理教室や講習会を開催するなど、食文化の理解促進を図ってまいります。

(2) 食の安全・安心への理解を通じた食育の推進について

No.	意見の概要	意見に対する考え方
3	<ul style="list-style-type: none"> 地産地消の推進について、放射能の影響で食品の安全性が求められている中、安全な作物を作り、安心して購入できるよう生産者や消費者に対する対策を示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本計画では、放射性物質に関する取組につきましては、（P54）「[No.6 1]リスクコミュニケーションの推進」に記載しましたとおり、県や本市が実施する放射性物質の検査結果を積極的に開示することで、食品の安全性に対する理解促進に取り組んでまいります。 また、農産物の安全確保のための取組としましては、生産者に対し放射性物質による汚染を低く抑える対策等の情報を提供するとともに、生産された農産物に対して、県によるモニタリング検査のほか、本市独自で地区ごとのスクリーニング検査を実施し、基準値を超えたものについては、出荷停止などの措置を講じております。また、（P55）「[No.6 3 監視指導の実施]」に記載しましたとおり、市場に流通した食品についても、抜き取り検査を実施し、食の安全確保に努めてまいります。
4	<ul style="list-style-type: none"> 消費者、生産者、流通・小売などの事業者、行政機関などがリスクコミュニケーションを行うとあるが、自産自消である家庭菜園での収穫物についての管理についても触れるべきであると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭菜園での収穫物につきましては、（P54）「[No.6 1]リスクコミュニケーションの推進」に記載しましたとおり、食品の安全性やリスクに関する情報交換等を通して、その安全性に対する理解促進を図ります。

(3) ライフステージに応じた食育の実践のための行動指針について

No.	意見の概要	意見に対する考え方
5	<ul style="list-style-type: none"> ライフステージ別に考えた場合、親からの自立や就職、結婚、子育てに関わる「青年期」や「壮年期」の食育の実践が課題であると思う。仕事や家事でゆとりがない世代に対して、地域や企業等と連携を図りながら、休日でも参加したくなるような魅力的な講座を開催したり、周知をしていくべきだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに関わる「青年期」や「壮年期」を対象とした取組につきましては、基本施策に（P31）「家庭における食育の推進」、（P36）「保育園、幼稚園、学校における食育の推進」として位置づけており、保護者への意識啓発等を通じた子育て世代の食育支援に取り組んでまいります。また、この世代は働く世代でもあることから、（P43）「[No.3 7]職域における健康づくり支援の実施」に記載しておりますとおり、企業等との連携強化を図りながら、食生活や健康に関する情報提供を実施し、働く世代の健康づくり支援に取り組んでまいります。 講座内容につきましては、いただいた御意見を参考にさせていただき、それぞれの世代やライフスタイルに合ったニーズの把握に努めながら、要望にあった講座内容となるよう必要に応じて見直しを図ってまいります。
6	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児期の行動指針について、欠食の防止、生活リズム、うす味の味覚を育てるなど、地道に本質を押さえている点は支持できる。さらに求めるものとして、米食、和食、郷土食の奨励に、感性が芽生える乳幼児期から取り組むのもよいと思う。 また、添加物による彩りやうま味より、本来の色や味に親しみ、それを見分け、求める力などは、物事の受け止めがより純粋なこの時期から身に付けることが大切であると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児期は、味覚を育てる大切な時期であり、御意見いただきました「米食、和食、郷土食」も含めまして、（P57）行動指針に記載しましたとおり、「●いろいろな食べ物や味を体験することで、食への好奇心を育むとともに、うす味でも食べられる味覚を育て（ます）」ることが必要であると考えます。その過程において、素材そのものや味に関心を持つことが大切であることから、記載に反映いたします。
7	<ul style="list-style-type: none"> 壮年期の行動指針について、炭水化物の摂取が肥満につながるというデータもあることから、「炭水化物を減らし、主菜や副菜中心の料理を食べることを心がけ、メタボリックシンドロームや生活習慣病を予防する。」という視点を入れた方がよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本計画では、厚生労働省が定める「日本人の食事摂取基準」に基づき、炭水化物や脂質などの望ましい摂取量を推奨していくため、望ましい食事の組合せやおおその量を示した食事バランスガイド等を活用した食生活の実践を推進していきます。炭水化物を減らした食事方法やメタボリックシンドロームを予防するための食生活につきましては、（P43）「生活習慣病予防の推進」事業として「[No.3 7]ヘルシーメニューの開発・普及」等に取り組んでいく中で検討してまいります。なお、今後も関連する研究等の情報収集に努めてまいります。
8	<ul style="list-style-type: none"> 高齢期の行動指針について、食事制限することが長寿遺伝子の活性化につながるというデータもあることから、「腹七分目として長寿遺伝子に働かせて老化を予防する。」という視点を入れた方がよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本計画では、（P62）行動指針に記載しましたとおり、高齢期の食生活につきましては、低栄養の予防が重要であり、栄養の過剰摂取の予防も含めて、適量の食事を摂取することを推奨していきます。食事制限が長寿遺伝子を活性化させ、寿命を延長するという説につきましては、現時点では、研究が進められている段階にあるものと受け止めており、今後も関連する研究等の情報収集に努めてまいります。

(4) 事業内容について

No.	意見の概要	意見に対する考え方
9	<ul style="list-style-type: none"> 事業の周知について、宇都宮市は車の利用する機会が多いので、車で出かける場所（郊外のショッピングモールなど）での掲示や呼びかけが効果的であると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> イベントや講座等の事業につきましては、各種広報媒体による周知や、市の出先機関や関係機関を通した周知を図っておりますが、いただきました御意見を参考にさせていただき、対象者に合った周知方法の工夫に努めてまいります。
10	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座や食育教室については、子育ての中で利用させていただいているが、こういった事業を知る機会が少ないように感じる。せつかくの機会なので、チラシの配付場所などを工夫して、アピールした方がよいと思う。 	
11	<ul style="list-style-type: none"> イベントを開催する際、離れた場所での同時開催は考え直してほしい。天候が悪いと足が遠のく。 	<ul style="list-style-type: none"> イベントの開催につきましては、中心市街地の活性化などの視点から、複数会場での同時開催をさせていただいている場合があります。いただきました御意見を参考にさせていただき、イベントの実施形態や規模につきましては、随時、検討してまいります。